



◇指導のねらい

- ①目と手の協応動作
- ②色の弁別
- ③色と数の弁別

◇基本の使い方

① ②について

- ・色の付いた玉を手に取り、その色を認識して、同じ色の玉の刺さっている棒を探す。
- ・同じ色の刺さっている棒を先までたどりその棒の先に玉の穴を合わせて刺す。

③について

- ・色の付いた玉を手に取り、その色を認識して、同じ色の玉の刺さっている棒を探す。
- ・同じ色の刺さっている棒を先までたどりその棒の先に玉の穴を合わせて刺す。
- ・その棒の前に置いてある数字を認識し、その数だけ玉を刺す。

◇指導の評価

- ・実態に応じてねらい、使い方、評価の仕方も様々

(例)

- ・どの色の玉でも棒の先をよく見て玉の穴を合わせてさすことができる。
- ・色の判別ができ、約40cmの棒の先までたどっての間その記憶を保持して正確に入れることができる。
- ・色を判別して同じ色の玉の刺さっている棒に刺すことができる。
- ・数字と色の2種類の情報を処理し、同じ色の玉を数字の数だけ正確に刺すことができる。